

災害廃棄物の試験焼却実施要領

1 目的

新川広域圏事務組合において、東日本大震災で発生した災害廃棄物の受入れを検討するに当たり、試験的な焼却処理及び埋立処分を行い、各段階において放射能濃度等の測定し、安全性の確認を行う。

2 試験焼却日

平成25年1月23日(水)	災害廃棄物搬入	1月22日(火)
	試験焼却	1月23日(水)
	焼却灰搬出・埋立	1月24日(木)

3 処理対象とする災害廃棄物

岩手県山田町の二次仮置場の選別・破碎された可燃物(木くずを主体としたもので、紙、布、プラスチック等が僅かに含まれるもの)であり、次の条件を満たすもの。

- (1) 放射性セシウム濃度(セシウム134とセシウム137の合計)が、100ベクレル/kgを超えないこと。
- (2) 廃石綿、PCB廃棄物等特別管理廃棄物及び石綿含有廃棄物に該当するものを含まないこと。
- (3) 50ミリメートル以下の選別・破碎ラインから排出されたものであること。

4 災害廃棄物の処理量

約10トン

5 処理処分実施施設

焼却処理 エコぼへと(朝日町)

埋立処分 新川一般廃棄物最終処分場(魚津市)

6 処理処分方法

- (1) 災害廃棄物は、エコぼへとにおいて、通常のごみと混合し(通常ごみ約140トンに対し、災害廃棄物約10トン)、1日間(約16時間)で焼却します。
- (2) 試験焼却により発生した焼却灰(飛灰)は、放射性セシウム濃度が100ベクレル/kg以下であることを確認し、新川一般廃棄物最終処分場へ搬出し埋立てします。

7 測定体制

災害廃棄物処理・処分の安全性を確認するため、次のとおりに各種測定を行う。

測定項目		測定機器、サンプル数等【※は基準値】	事前	実施中	事後
山田町 二次仮置場	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/kg (岩手県) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ5 Bq/Kg) ※100Bq/kgを超えないこと。	○		
	有害物質濃度	PCB、石綿等濃度 (富山県) ※廃棄物の溶出基準、含有基準等を満たすこと。	○		
	空間線量率	線量計 μ Sv/h (富山県) ※バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと。		○	

山田町 二次仮置場	災害廃棄物	遮蔽線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (富山県) ※ $0.01\mu\text{Sv/h}$ を超えないこと。		○	
	コンテナ	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (富山県) ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。		○	
富山貨物駅	敷地境界	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (富山県) ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。		○	
	コンテナ	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (富山県) ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。		○	
エコぽ〜と	通常ごみ	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/kg (広域圏) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ5 Bq/Kg)	○		
	災害廃棄物	遮蔽線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (富山県) ※ $0.01\mu\text{Sv/h}$ を超えないこと。		○	
	コンテナ	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) コンテナ両側面 ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。		○	
	施設内	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 施設内3箇所 ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	敷地境界	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 4方位 ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	周辺地	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 朝日町、入善町計10箇所 ※'バックグラウンド'空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	周辺土壌	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/kg (広域圏) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ5 Bq/Kg) 朝日町、入善町計10箇所	○		○
	周辺地下水	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/L (広域圏) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ1Bq/L) 朝日町、入善町計2箇所 ※10Bq/L以下であること。	○		○
	排ガス	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/m ³ (広域圏) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ1Bq/m ³) 各炉(3炉) ※セシウム134濃度/20+セシウム137濃度/30 \leq 1	○	○	○
		ダイオキシン類濃度	ng-TEQ/g (広域圏) 各炉(3炉) ※5ng-TEQ/gを超えないこと。		○	
	焼却灰 (飛灰)	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/kg (広域圏) (検出下限値:セシウム134とセシウム137それぞれ5 Bq/Kg) 貯留槽 ※100ベクレル/kgを超えないこと。	○	○	○

新川一般廃 棄物最終処 分場	敷地内	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 埋立地内 ※バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	敷地境界	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 4方位 ※バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	放流水	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/kg (広域圏) (検出下限値: セシウム134 とセシウム137 それぞれ 1Bq/L) 放流槽 ※セシウム134 濃度/60+セシウム137 濃度/90 \leq 1	○		○
	周辺地	空間線量率	線量計 $\mu\text{Sv/h}$ (広域圏) 3箇所 ※バックグラウンド空間線量率の3倍を超えないこと。	○	○	○
	周辺地下水	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/L (広域圏) (検出下限値: セシウム134 とセシウム137 それぞれ 1Bq/L) 2箇所 ※10Bq/L 以下であること。	○		○
	周辺用水	放射能濃度	ゲルマニウム半導体検出器 Bq/L (広域圏) (検出下限値: セシウム134 とセシウム137 それぞれ 1Bq/L) 2箇所 ※セシウム134 濃度/60+セシウム137 濃度/90 \leq 1	○		○